

2016年 9月2号 中央構造線近い・伊方原発（愛媛県）再稼働に抗議 原発再稼働に反対！  
岐阜市議会 9月議会 **請願紹介** 松原のりかず 9月2日 開会冒頭

## 子宮頸がん予防ワクチン副作用の情報収集と

## 自治体への情報提供及び副作用の治療法の

## 早急な開発を求める意見書採択を求める請願

請願第7号（標記の請願名）の紹介をさせていただきます。

請願は、岐阜市黒野471-1 別処雅樹さんから提出されています。紹介議員は、服部勝弘、田中成佳、高橋和江、堀田信夫、井深正美、原菜穂子の各議員と、松原のりかず です。

7月28日の新聞各紙は「ワクチン被害一斉提訴、子宮頸がん 名古屋など63人」などの見出しで報道しています。「国が接種を呼び掛けた子宮頸がんワクチンが、全身に痛みやしびれといった副作用を引き起こしたとして、県内の2人を含む23都道府県に住む15～22歳の女性63人が7月27日、国と製薬企業2社に損害賠償を求めて一斉提訴した」と報道しています。

「厚生労働省は2009年10月にワクチンを承認、同年12月に国内販売開始。2010年11月に公費助成を開始。2013年4月には小学校6年生～高校1年生の女性への定期接種対象となり、339万人が接種をうけた。しかし、健康被害を訴える女性が相次ぎ、厚生労働省には本年4月末までに2945人から副作用の報告があった。」と報道し、さらに後遺症に苦しむ女性（15歳）のご家族は、「娘は中学校にほとんど行けず、勉強する機会もなかった。全国の病院を渡り歩く闘病生活を続けている」と訴えられているとのこと。

本来がん予防とされるワクチン接種が健康な女性を苦しめる結果となっている事例の出現が重大です。副作用に苦しむ患者・家族への救済を急がなければなりません。対応が遅れることは「患者救済は勿論のこと、予防接種制度への信頼をも揺るがす」ことになる。として、請願者は3点の要請を意見書として採択される事を岐阜市議会へ求めています。 すなわち、

- 1 子宮頸がん予防ワクチン副作用患者の全国の情報収集に努め、最新情報を自治体・市民に提供すること。
- 2 副作用治療法の早急な開発に努めること。
- 3 患者救済に必要な処置をとること。

であります。以上、申し上げます 請願第7号の紹介 といたします。

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

## 伊藤哲さん自死公務災害認定裁判、いよいよ結審へ！

弁護団と最終弁論原稿で意見交換会 21時までかけ、討論熱心に **9月5日**

5日は、9月議会の議案精読中であり、弁護団との意見交換会を6時以降にして頂きました。弁護士3人の100ページ以上もある原稿をいきなり渡されて、熟読と意見を求められ大変でした。会議は伊藤夫人と弁護団に事務局、市議員からは田中成佳議員と **松原のりかず** が参加させて頂きました。午後6時半から9時まで細部にわたる意見交換を行い、9月26日（月）が結審となります。残念ながら、26日も議会で裁判には出席出来ませんが、良い結果を祈るのみです。

説明会資料**8月26日**の全議員への配布を要請！ 無所属クラブ総務議案精読で原子力災害の対策と岐阜県が実施した放射性物質拡散シミュレーション結果に関する説明会（近県事故の場合の拡散予測）



松原のりかず  
☎058-253-2500

無所属クラブの議案精読の機会に、防災部主催の原発事故に関する説明会資料が全議員に説明配布されていない事を指摘し、丁寧な開催案内と事後の資料配布をお願いしました。